岩手県立博物館だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum
岩手県立博物館ホームページアドレス
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

2018. 3 No. 156

目次／地域展　明日につなぐ気仙のたからもの－津波で被災した陸前高田資料を中心に－**表紙**／展覧会案内　「明日につなぐ気仙のたからもの－津波で被災した陸前高田資料を中心に－」の開催に当たって**p.2-3**／事業報告　トピック展「ゆく酉くる戌」　解説員室より　～博物館を２倍楽しむ　「？」から「！」へ「ワクワク！こどもツアー」～**p.4**／展覧会案内　トピック展「知られざる切手の世界」　事業報告　県博日曜講座**p.5**／館長エッセイ　「青い目の人形と答礼人形（日本人形）の辿った歴史を訪ねて」**p.6-7**／インフォメーション**p.8**

背景画像＝陸前高田の漁撈用具「ハンテン」（国登録有形民俗文化財　陸前高田市立博物館蔵）

東日本大震災発災から７年、絶え間なく続けられている被災文化財の再生作業。それは、地域の歴史を、文化を、明日につなぐ仕事です。

この展覧会では、気仙地方とりわけ陸前高田市に伝わる貴重な被災文化財に視点を当て、試行錯誤しながら構築された安定化処理方法や、被災資料が携えてきた未来へのメッセージを紹介します。

■展覧会案内

「明日につなぐ気仙のたからもの ー津波で被災した陸前高田資料を中心にー」の開催に当たって

会期：平成30年３月３日（土）～平成30年３月28日（水）

■大津波被災資料の再生

2011（平成23）年３月11日、わが国を突然襲った東日本大震災から７年の歳月が経とうとしています。巨大地震とその後襲来した大津波によって、地域に伝わる文化遺産、自然遺産が被災し、博物館関係施設も甚大な被害を受けました。文化財保護法制定以降最大の自然災害発生を受け岩手県立博物館では、文化庁が設置した東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会の支援を得ながら、岩手県内の教育委員会、博物館関係機関と連携し、被災資料の救出と再生に取り組みました。

平成24年５月からは、文化庁が設けた被災ミュージアム再興事業を活用し、岩手県太平洋沿岸部の博物館関係機関が収蔵・展示してきた資料の再生を図ってきました。その成果につきましては、平成25年１月～３月に開催したテーマ展『2011.3.11　平成の大津波と博物館－被災資料の再生をめざして－』で公表し、その後、全国の様々な機関および個人の方々から頂いた暖かい支援に対し謝意を表することと、被災地の現状を理解していただくことを目的に、昭和女子大学、江戸東京博物館等で巡回展示しました。

■大津波プロジェクトとの連携

津波被災した資料の再生は、わが国はもとより国際的にみても経験がなく、確立された方法はありません。救出された資料は、紙を素材とする資料、繊維を素材とする資料、木や金属を素材とする資料、漆工品、革製品、染料や顔料などを使って彩色が施された絵画など多岐にわたり、それぞれの素材に適した安定化処理方法を構築する必要があります。

再生を効率的に進めるためには、資料を構成する素材の取り扱いに精通した博物館や大学をはじめとする専門機関と連携し、それぞれの機関で確立された技術や情報を共有しながら、その再生を図らなければなりません。

陸前高田市立生出（おいで）小学校（現仮設陸前高田市立博物館）に搬送された被災民具（平成23年6月）

そこで、「活動に対する理解の醸成」、「技術の共有と普及」、「大規模自然災害への備え」を主な活動目的に掲げ、平成26年度、岩手県立博物館を中核館とし、公益財団法人日本博物館協会、東京国立博物館、特定非営利活動法人文化財保存支援機構、陸前高田市立博物館を主な構成機関とする「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」を結成し、文化庁が準備した「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受けながら、公益財団法人日本博物館協会の主導で、様々な活動を行ってきました。

■特別展の開催

実行委員会の重要な事業の一つに、特別展の開催があります。被災地の実情を理解していただくと共に、新たに確立された技術の普及を図りつつ、今後の災害に備えるうえで、きわめて有効な事業です。平成26年度～平成28年度は東京国立博物館、兵庫県立歴史博物館、福井県立歴史博物館、名古屋市立博物館をはじめとする８機関で、平成29年度は徳島県立博物館と新潟県立歴史博物館で開催いたしました。

大津波プロジェクト主催特別展（名古屋市立博物館提供、平成27年３月）

発災から７年が経とうとする今、被災地では被災資料の再生に加え、再生された資料を活用する博物館の復興が新たな課題として生じています。それには再生した資料が有する学術情報の復元が不可欠ですが、資料カードやデジタル情報のほとんどを失った被災地にとって、極めてハードルの高い課題です。

大津波プロジェクトが実施している特別展の内容に、岩手県立博物館をはじめとする様々な機関が実施してきた被災資料に対する調査や、安定化処理の過程で得られた様々な学術情報を加味することによって、被災した博物館の復興を図るうえで必要な情報の提供が可能となります。今回の支援特別展は、大津波プロジェクトと岩手県立博物館の連携による新たな試みとして開催される事業です。

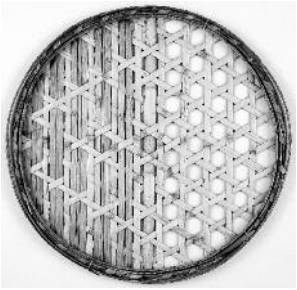
■支援特別展の概要

支援特別展ではまず、岩手県指定文化財『吉田家文書』を紹介します。陸前高田市立図書館の特別保管庫に収蔵されていたため流失は免れたものの、襲来した大津波で被災しました。それらを一刻も早く救出してほしいという陸前高田市教育委員会の強い要請を受け、岩手県内の文化財関係機関が連携した公的救援活動で最初に救出された資料です。

救出後、岩手県立博物館で安定化処理

安定化処理および修理が施された吉田家文書（『定留』文政三（1820）年、個人蔵）

が施され、その後、国立国会図書館の手で修理が行われました。現在、岩手県立博物館において経過観察しながら、差し込みや付箋等の点検が進められています。支援特別展では吉田家文書をはじめとする、紙を素材とした資料に対して構築された安定化処理方法と、吉田家文書の学術的重要性について解説します。



ナウジカゴ（国登録漁撈用具、陸前高田市立博物館蔵）

三陸に暮らす人々は縄文時代から、豊かな海の恩恵を受けながら漁撈文化を育んで来ました。岩手県陸前高田市の広田湾でも古くから様々な漁具を使って漁業が営まれ、時代の推移とともに漁法や使用する漁具を変え、今日に至っています。陸前高田市立博物館には近現代、広田湾およびその周辺で使用されていた2045点の国登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」が収蔵・展示されていましたが、襲来した大津波によって123点が流失しました。救出された1922点も腐敗や錆化が進み痛んでいました。

救出後、文化庁の指導を受けながら安定化処理と修理を進め、平成29年12月末現在、約８割の再生を果たすことができました。特別展では秋季から冬季に漁が行われる、アワビ漁、サケ漁、タラ漁、ノリ養殖に視点を当て、吉田家文書で近世の漁の状況を振り返りながら、近現代の漁撈用具の使用方法を、イラストを用いながらわかり易く解説します。

木造阿弥陀如来坐像（岩手県指定文化財、光勝寺蔵）（明珍素也氏撮影）

気仙地方の重要な産業の一つとして産金を挙げることができます。気仙地方には玉山金山や八鉢(やはち)鉱山をはじめとする29の金鉱山と12の産金遺跡が確認されていて、文献資料等を加味すると、中世以降、金の採掘が盛んに行われ、近世には稼動が終わった金鉱山の再開発が行われていた様子もみてとれます。支援特別展では、津波被災の後、一時行方不明となった八鉢鉱山採集金鉱石とその自然科学的調査結果、岩手県住田町光勝寺所蔵、木造阿弥陀如来坐像（岩手県指定文化財）を公開します。光勝寺は奥州藤原氏の時代に金山労働者の信仰を集めたと伝えられていて、本像は産金をめぐる奥州藤原氏との関係を研究するうえで重要な資料の一つです。

水洗が困難なため、安定化処理方法の構築が難航した資料の一つに、絵画があります。様々な実験によって最近、水彩画および油彩画を対象とした脱塩方法が構築されました。支援特別展では、ネコと頭（猪熊弦一郎）、冬の松原(吉田啓一)、ゴルファーズダイヤリー挿絵原画（吉田郁也）等、再生された資料を処理前の写真とともに公開しながら、再生方法のポイントを解説します。

■関連事業

支援特別展では会期中、様々なイベントが計画されています。3月11日（日）には、支援シンポジウムが岩手県立博物館講堂で開催されます。このシンポジウムでは、発災以降連綿と続けられている安定化処理の現状と課題を報告し、被災した博物館資料再生の意義を共有するとともに、被災した博物館の復興を果たすうえでの課題について考えます。また、米国の研究者を招き、救出された友情人形と答礼人形『ミス岩手』の歴史的対面をとおし、平和の大切さ、海を越えた友情の重要性についてお話いただくと共に、震災復興への励ましをいただく予定にしています。

岩手県太平洋沿岸部のなかでもきわめて深刻な被害を受けた陸前高田市では、約56万点の博物館関係資料が被災し、46万点余りが救出されました。全国の様々な機関、個人の方々からの支援によって、これまでに約22万点の再生を図ることができましたが、未だ24万点余りが救出されたままの状態で再生の日を待っています。

3月3日から開催される支援企画展を契機として、被災資料の再生が一層進み、博物館復興への道筋がみえてくることを関係者一同切望しています。読者の皆様におかれましては今後も引き続き御支援の程、お願い申し上げます。

（首席専門学芸員　赤沼　英男）

■事業報告

トピック展「ゆく酉くる戌」

開催日　平成29年11月28日（火）～平成30年2月25日（日）

当館の収蔵庫には様々な貴重品や珍しいものが保管されていますが、なかなか展示する機会がないまま、しまい込まれているものがたくさんあります。これらの「お宝」を皆様に見ていただくために、トピック展と呼ぶ小規模な展覧会を不定期に開催しています。今回は干支にちなみ「ゆく酉くる戌」と題して展示を行いました。

酉展示の中心は、国の天然記念物である南部地鶏です。いくつか羽色の異なるタイプがあるうち、当館には赤茶色の「赤笹」と白色の「白笹」の剥製があります。南部地鶏は、一時は絶滅したと考えられたほど個体数が減りましたが、現在は系統を絶やさないよう継代飼育されています。この他に、カモの仲間などの冬鳥や、県内で見られる珍しい鳥などを展示しました。「ハヤブサに近い種類はフクロウ、インコ、カラスのうちのどれか？」や「パンダガモと呼ばれているのはどれ？」などのクイズが好評でした。

戌のコーナーでは、迫力あるタイリクオオカミの剥製や、イヌの骨格標本、同じイヌ科であるタヌキとキツネの剥製も展示しました。また、岩手県産ニホンオオカミの頭骨標本は当館初の展示でした。これは奥州市江刺区の農家で、江戸時代から魔よけとして玄関に吊るされていたものです。これを地元の獣医師の方が譲り受け、現在は当館でお預かりしています。今回の展示では、元の持ち主の方が来館され、二十数年ぶりの対面に大変喜んでおられました。

また、この展示のニュースを見たことがきっかけで、奥州市水沢区の方からオオカミと思われる頭骨を寄贈していただきました。現在、確かにオオカミのものであるのか、専門家に鑑定を依頼中です。

当初は１月21日までの予定でしたが、好評につき開催期間を延長しました。これからも皆様が楽しめる展示を行って参りますので、今後の開催情報にご注目ください。　（学芸調査員　渡辺修二）

■解説員室より

博物館を２倍楽しむ　「？」から「！」へ
～ 夏休み・冬休みスペシャル　ワクワク！こどもツアー ～

皆様は「博物館に行く」といった時、どの様なイメージをするでしょうか。

解説員は、皆様により楽しんで頂くことができるよう、資料について分かりやすく解説する役割を担っております。観た資料について「？」を抱き「！」に変換する、そのようなお手伝いができればと思い様々な取り組みをしています。その1つが「夏休み・冬休みスペシャル　ワクワク！こどもツアー」です。解説員と一緒に館内を探検して回る「解説付き見学会」ですが、最大の魅力は、普段は観るだけの資料に「触って・体感」できることにあります。テーマを絞り約30分で展示室をまわります。そして、こどもたちの「ワクワク」や「？」を誘い「発見！学び！」につなげるという企画です。この企画は夏休み、冬休み期間に行っています。ではここで、平成29年度の内容を具体的にご紹介します。

夏休みスペシャルでは、「自然コース」と「歴史コース」のいずれかを選択して頂きました。「自然コース」の目玉はこどもたちに大人気の恐竜です。その他、アンモナイトの化石、ツキノワグマの頭骨などに実際に触れて頂きました。「歴史コース」のテーマは人間の生活の変化です。縄文土器に触れ、竪穴住居や盛岡城、いろりを囲む家のつくりなどから人々の暮らしの変化をたどりました。冬休みスペシャルでは、恐竜やクジラ、クマゲラなどの生物と、昭和時代までの人々の暮らしを知ることをテーマとしたコースを設けました。特に、黒電話や氷冷蔵庫などが並ぶ大正時代から昭和時代までの暮らしを紹介した展示（「むかしのくらし大図鑑」）は、まさに「？」から「！」へと変換される一押しの展示です。小学生の社会科見学などでも多くの解説希望を頂いております。

「こどもツアー」は期間限定の特別企画ですが、毎日の定時解説、資料についてのご質問等にもお応えしております。お客様からは「普段は見るだけだったが、解説を聞いて楽しかった」「改めて詳しく知る事が出来た」など有難いご感想を頂戴しております。また、お客様から貴重な情報を頂くことも多く、解説員がお客様と共有できる時間はかけがえのない財産となっております。皆様、お気軽にこどもツアーへのご参加、また解説をご用命ください。「観る」プラスアルファ、博物館を２倍楽しみ、満喫して頂けることを願い、解説員一同、皆様のご来館を心よりお待ちいたしております。

（解説員　中村紫保）

■展覧会案内

トピック展「知られざる切手の世界」

開催日　平成30年3月10日（土）～4月15日(日)　場所　岩手県立博物館グランドホール

当館には、数百種類を数える日本の切手が所蔵されています。時期は、明治・大正時代から、最近まで。内容も様々で、見ていて飽きないものばかりです。今回のトピック展では、数多くの切手をテーマごとに展示します。

1　切手で日本一周

美しい日本の風景は、切手の題材として、数多く登場します。国定公園や史跡・名勝などの代表的な風景が中心ですが、「ふるさと切手」というシリーズでは絵のタッチや題材も多様です。例えば、福井県は東尋坊が代表的な名勝として挙げられますが、このシリーズでは、多くの化石が発掘されていることにちなみ、イグアノドンなどの恐竜が描かれています。各地の風景は、私達を旅へと誘います。

2　手のひら動物園～動物の切手～

日本に生息する動物や昆虫を描いた切手を中心に紹介します。1974年の「自然保護シリーズ」では、イリオモテヤマネコやニホンカワウソなど貴重な野生動物が描かれました。一方、1982年の「動物園100年記念」では、根強い人気のパンダをはじめ、ライオンやゴリラなどが今に動きだしそうな生き生きとした姿で描かれています。

3　手のひら美術館～名画の切手～

切手のデザインは、専門のデザイナーがデザインすることが大半ですが、名画がその題材となることもあります。1979年の「近代美術シリーズ」では、岩手県出身の萬鉄五郎の「もたれて立つ人」や竹久夢二の「黒船屋」など日本の近代美術をけん引した画家の作品が取り上げられています。他にも、江戸時代の錦絵も題材とした切手も紹介します。

4　アニメと切手

アニメの主人公の多くが、近年切手の題材として取り上げられています。

「科学技術とアニメ」ではドラえもんが、「ヒーロー・ヒロインシリーズ」では、ポケットモンスターやコナンが描かれています。それぞれのアニメの魅力は切手の中にも存分に生きています。

手のひらサイズの小さな作品の数々をぜひご覧ください。

「てのひら美術館」へようこそ！

（専門学芸調査員　原田祐参）

■事業報告

県博日曜講座

毎月２回、第２・４日曜日開催

岩手県立博物館では、郷土の歴史や文化、自然をテーマに、県民一般向けの講座を定期的に開催しています。平成の初め頃に始まった「館長日曜講座」を前身とする本講座は、30年あまりの年数を重ねてきた、当館でも人気の高いイベントのひとつに挙げられます。

各講座は、主に各部門の学芸員が担当していますが、年に５～６回は外部講師をお招きして、企画展やテーマ展に関連するご講演をいただいています。

外部講師による日曜講座のようす

今年度は、23回の講座を予定しておりましたが、15回目の終了時、11月末時点での受講者は1000人を超え、既に昨年度の実績を400名上回る数字を数えました。近年、年間の入館者数も増加傾向にありますが、この日曜講座も多少貢献していると言えましょう。

日々の研究成果や各部門での取り組みなど、内容は多岐に亘りますが、多くの方々に関心を持ってご参加いただいていることは喜ばしい限りです。アンケート調査によると、受講者の９割を超える方々から「満足・やや満足」との評価を頂戴しており、これも担当する学芸員の一層の励みに繋がっています。

わかりやすく丁寧な説明を心がけ、県民のみなさんに新たな郷土の姿をご覧いただくとともに、今後も魅力ある情報を発信し続けたいと思います。

（学芸第三課長　濱田　宏）

平成29年度

県博日曜講座

毎月第２・４日曜日　13:30～15:00　当日受付・聴講無料

都合により講師及び内容が変更となる場合や休止となる場合もあります。ご了承ください。

開日	演題	講師	備考
10月8日	中世南部氏と糠部について考える	岩手県立博物館学芸員（歴史） 佐々木康裕	テーマ展関連講座
10月22日	発掘された岩手の中世城館	岩手県立博物館学芸課長（考古） 小山内　遥	
11月12日	三戸南部氏成立の謎一掘り起こされた三戸南部氏の居城「聖寿寺跡」一	南部町教育委員会社会教育課 寺島和洋　氏	テーマ展関連講座
11月26日	岩手の鳥相を語る～ネイチャーセンターとり日誌～	滝沢森林公園ネイチャーセンター所長　斉藤友彦　氏 岩手県立博物館学芸員（生物） 藤井志寿	
12月10日	ドラゴンアイ（八幡平・鏡沼）のでき方を考える	岩手県立博物館学芸員（地質） 山岸千人	
12月24日	岩手の往来	岩手県立博物館学芸員（歴史） 畠田貴弘	
1月14日	花巻人形の源流を探る―ひとがたから雛人形へ―	花巻市博物館館長 高橋信雄　氏	テーマ展関連講座
1月28日	ひとのかたち～「ひとがた」と「にんぎょう」～	岩手県立博物館学芸員（民俗） 川向富美子	テーマ展関連講座
2月11日	作人館と求我社の人々～自我の確立を求めて～	岩手県立博物館学芸員（歴史） 武田麻紀子	
2月25日	被災資料が語る海の交流	岩手県立博物館学芸員（文献） 赤沼英男	地域展関連講座
3月11日	気仙展関連シンポジウム		地域展関連講座
3月25日	「どげ」って何ですか―気仙地方の婚礼習俗―	岩手県立博物館学芸課長（民俗） 小野寺俊彦	地域展関連講座

岩手県立博物館　〒020-0102　盛岡市上田字松屋敷34番地　TEL 019-661-2831　fax 019-665-1214

平成29年度下半期日曜講座

■館長エッセイ

「青い目の人形と答礼人形（日本人形）の辿った歴史を訪ねて」

館長　髙橋　廣至

はじめに

皆さんは、昭和２年（1927）から始まった日米親善人形交流をご存じでしょうか。昨年、この親善人形交流が90年を迎えたことを機に、県立博物館では日米親善人形交流に因んだ『海を越えた絆－「ミス岩手」と青い目の人形－』展（巡回展）を開催することにしました。この日米親善人形交流は岩手県とも深いつながりを持っています。そこで、展示会を開催するにあたり、岩手県に関連する人形交流の貴重な資料をお借りするためにバーミングハム公立図書館（米国アラバマ州・バーミングハム市）に、また、90年間に亘る日米親善人形交流の経緯をお聴きするためにワシントン市に出かけてまいりました。

日米親善人形交流と渡米の経緯

最初に、日米親善人形交流についてお話しします。昭和２年当時、米国では日系移民に対し排斥運動が非常に強くなり、日米関係は悪化の一途をたどりました。このような状況に、日本の大学で教鞭を執った宣教師シドニー・Ｌ・ギューリック博士（１世）は、心を痛め、日米の子どもたちの友情を育もうとDoll Project（ドールプロジェクト）を立ち上げました。米国の子どもや親たちに呼びかけて約１万３千体の「青い目の人形」が日本に贈られてきました。また、日本では渋沢栄一氏らによって、「日本人形」58体が「青い目の人形」のお礼、「答礼人形」として米国に贈られました。

「青い目の人形」は岩手県内の幼稚園や小学校等で18体が確認されています。現在、県立博物館で展示中ですが、陸前高田市立気仙小学校所蔵の「スマダニエル・ヘンドレン」もその中に入っています。

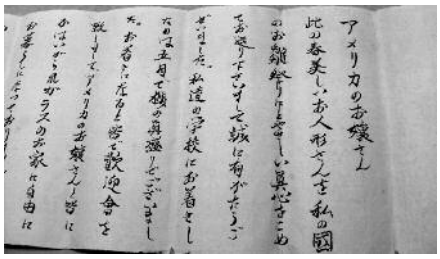
スマダニエル･ヘンドレン

ここで少し「ヘンドレン」のお話をします。「ヘンドレン」は、昭和２年に気仙小学校にやって来ました。しばらくすると第２次世界大戦が勃発しました。残念なことに日米は敵対国となり、日本に来た数多くの「青い目の人形」は、燃やされたり、壊されたりしました。でも、「ヘンドレン」は同校の心優しい女性教師の機転によって保護され、難を逃れることができました。しかし、危機は再度彼女を訪れます。戦後65年以上の月日が経った平成23年３月11日、校長室の金庫でお昼寝をしていた「ヘンドレン」は、突然、津波(東日本大震災津波)に襲われ行方が分からなくなってしまったのです。けれども４月上旬、一生懸命に行方を捜していた校長先生によって小学校の裏手で救出されました。「ヘンドレン」は、戦争と津波という大きな危機を乗り越えた貴重な青い目のお人形なのです。

ミス岩手・岩手鈴子

次に、同じく当館で展示されている「ミス岩手」の「岩手鈴子」についてお話しします。「青い目の人形」のお礼に58体の日本人形が、「答礼人形」として海を渡りました。「岩手鈴子」もその中の一体です。「岩手鈴子」は、バーミングハム公立図書館に所蔵されていますが、同図書館には「青い目の人形」をいただいたお礼に岩手の小学生が書いた２８通の手紙も大事に保管されています。昨年、公立図書館の格別なご厚意により「岩手鈴子」と28通の手紙の中から３通を県内の巡回展のためにお借りする約束をしました。

そのようなことから、「岩手鈴子」と「岩手の子どもたちの手紙」を無事に里帰りさせることが渡米訪問団の最重要任務となりました。



岩手の小学生から届いたお礼の手紙

次に、今回のもう一つの目的である「日米親善人形交流の経緯を知る」についてお話しします。ワシントン市には、「日米親善人形交流」を始めたギューリック１世の孫にあたるギューリック３世がお住まいで、祖父の意志を引き継いで新たに親善人形交流の活動を続けています。渡米前、ギューリック３世に「新日米親善人形交流」について直接お聴きしたい旨をお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。

アメリカにて

まず、バーミングハム公立図書館に着いて驚いたことは、「岩手鈴子」と岩手の小学生から送られてきた「青い目の人形」のお礼の手紙が、大切にかつ厳重に保管されていることでした。

公立図書館前文化・観光部長の宮川治

バーミングハム公立図書館

代さんは、「『ミス岩手』は、毎年、市主催の『桜まつり』や『感謝祭』等の行事でお披露目されています。今やバーミングハム市民の宝です。でも、このお人形や岩手の小学生から届いた貴重な手紙について、まだまだ知られていません。今後、多くのアメリカ人や日本人にもっと知ってほしい、理解してほしいと思っています。できれば日米で協力し合い、翻訳などの仕事を進め、一冊の本にまとめていただければうれしい」と話されました。また、バーミングハム市滞在中に多くの方々から人形交流のお話を伺いましたが、バーミングハム市と岩手がこんなにも身近な関係にあるとは思いもよりませんでした。

岩手日報の取材を受ける宮川さん

さて、私たちはバーミングハム市での展示会資料の借り受けを終え、ワシントン市に向かいました。ワシントンでは、日米親善人形交流の父と言われるギューリック1世の孫にあたるギューリック3世のご自宅に招かれました。3世は祖父の意志を引き継ぎ、昭和61年から30年間以上、日本の子どもたちに新しい友情の「青い目の人形」を贈り続けています。私財を投じて贈り続けた人形は、280体以上にもなっています。

戦後、二度と悲劇の歴史を繰り返さないようにというギューリック3世の思いに日米の多くの方が賛同し、現在も親善人形交流は続いています。

ギューリック3世は81歳になりますが、到底そのようなお歳には見えません。私たちが沢山用意して来た人形交流の質問にも真摯に、誠実に、かつ熱く語っていただきました。

「過去においても現在でも、世界中で争いごとが絶えませんが、いつの時代でも純粋な子どもたちの心に愛の心を育てることが大切です」また、「平和を望む者は、まず子どもたちの心にそれを訴えなければなりません」というお話が特に印象に残っています。

ギューリック3世宅にて

世界を見渡しますと、いつの時代でも悲しい出来事が繰り返されています。ギューリック3世のお話を伺いながら、何か少しでも子どもたちに夢を与えること、そのようなことが博物館でもできないものだろうかと考えていました。

人形の意義

友情人形全国交流会の魚次龍雄さんは、「1927（昭和2）年に贈られた人形が、なぜ人々の心を引き付けるのでしょうか。それは、人形が平和の願いを持ち、平和を訴えた歴史があるからです。人形交流の歴史はそのまま平和の歴史となります。人形は子どもたちのもの、未来を生きる子どもたちに平和を託す人形。これを伝えていくのは大人の使命かもしれません」、「人形を手にすると、子どもだけでなく大人も笑顔になります。それが人形の力なのです。人形は何も語りませんが、人形を通して人々が語るのです。これからも、人形を通じて世界の国々の子どもたちが仲良くなることを願っています」と話されています。この魚次さんの言葉から、まさに日米親善人形交流の尊さと、この交流を継続していく想いの強さを感じることができます。

展示会「海を越えた絆」

巡回展「海を越えた絆－『ミス岩手』と青い目の人形－」は、平成29年12月に陸前高田市、一関市立博物館で開催されました。岩手県立博物館では、平成30年1月8日（月・祝）～3月22日（木）まで開催しています。県立博物館の展示会では、「ミス岩手」と県内の幼稚園・小学校等に所蔵されている「青い目の人形」をご覧いただくことができます。

おわりに

数奇な運命をたどったお人形ではありますが、海を越えた愛の架け橋交流は現在も多くの人々に受け継がれています。人形は無言ながらも私たちに平和の尊さ、人間の持つ優しさについて教えているような気がしてなりません。是非、この機会に県立博物館で開催されている展示会にお越しいただき、皆さんの心で確かめていただければ幸いです。お待ちしております。

＊「青い目のお人形たち」は3月22日(木)まで皆さんをお待ちしておりますが、各校の「卒業式」に出席のためなど、帰宅する場合があります。18体全員揃っているのは2月12日(月)までとなります。

渡米訪問団員
岩手県立博物館　館長　髙橋　廣至
上席学芸員　赤沼　英男
岩手県立総合教育センター
学校教育参与　平賀　信二
株式会社 吉徳　(同行)顧問　青木　勝
岩手放送株式会社 テレビ制作部
(同行)専任部長　角掛　勝志

岩手県立博物館
IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション 〈2018.3.1～2018.6.30〉

お知らせ

●ゴールデンウィーク臨時開館
ゴールデンウィーク期間中の５月１日(火)は臨時開館します。
４月28日(土)～５月６日(日)は無休、翌５月７日(月)は休館です。

国際博物館の日

●入館無料　５月18日(金)
５月18日(金)の国際博物館の日は入館無料となります。

●国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー(事前申込制)
５月20日(日)　要事前申込(応募者多数の場合は抽選)
ふだんは見られない収蔵庫などを特別にご案内します。いずれかのコースを選んでお申し込みください。(各回定員10名)
①文化財レスキューコース(所要時間約80分)10：10～、②自然コース(所要時間約80分)10：20～、③文化財レスキューコース(所要時間約80分)13：10～、④歴史コース(所要時間約80分)13：20～
募集期間：４月１日(日)～４月27日(金)必着
応募方法：往復はがきに①参加希望コース、②住所、③参加者全員の氏名、④電話番号を明記の上、当館「県博バックヤードツアー係」宛に郵送してください。

展 覧 会

●巡回展「海を越えた絆～『ミス岩手』と青い目の人形」
平成30年１月８日(月・祝)～平成30年３月22日(木)　２階　特別展示室

●地域展「明日につなぐ気仙のたからもの―津波で被災した陸前高田資料を中心に―」
平成30年３月３日(土)～平成30年３月28日(水)　２階　特別展示室
東日本大震災で被災した陸前高田の文化財等の再生作業が続いています。再生作業の方法や、資料が持つ未来へのメッセージを紹介します。

◆安定化処理実施者を交えてのギャラリートーク
平成30年３月３日(土)11：00～11：50　２階　特別展示室

◆音の再生に成功したリードオルガン演奏会(要入場整理券)
平成30年３月３日(土)14：00～16：00　地階・講堂
被災オルガンと歌とバイオリンによって構成される約２時間の演奏会。
＊入場整理券は2／27より当館受付にて配布(お一人様一枚まで)

◆シンポジウム「連綿と続く被災文化財再生の歩み－博物館復興をめざして－」
平成30年３月11日(日)10：00～16：00
地階・講堂　当日受付・聴講無料

◆特別講演会
「ふるさとは負けない－けんか七夕祭りに掛ける復興の願い－」
平成30年３月18日(日)13：30～15：00　地階・講堂　聴講無料
講師　河野和義　氏(気仙町けんか七夕祭り保存連合会名誉顧問)

◆展示解説会
平成30年3月10日(土)、3月24日(土)　各14：30～15：30
２階　特別展示室
当館学芸員が、展示中の被災文化財資料について解説いたします。(要入館料)

◆県博日曜講座
平成30年３月25日　13：30～15：00　地階・教室　入場無料
「「どげ」って何ですか―気仙地方の婚礼習俗　どげ(道化・道迎)―」
小野寺俊彦　(当館学芸課長)

●地域展「未来への約束―語りはじめた気仙のたからもの」
平成30年４月３日(火)～平成30年５月６日(日)　２階　特別展示室
＊平成30年３月３日(土)～３月２８日(水)まで行われた「●地域展『明日につなぐ気仙のたからもの』のPartⅡとなる展覧会です。
※地域展関連事業の詳細は当館ホームページにてご案内します。

●企画展「魅力的な八本脚の生き物・クモ」
平成30年６月２日(土)～平成30年８月19日(日)　２階　特別展示室
クモの生態や特徴だけでなく、人間との関わりを文化的な側面からとりあげ、クモの魅力に迫ります。「分かればきっと好きになる！」
＊関連する日曜講座、自然観察会、展示解説会を予定しています。

県博日曜講座

第２・第４日曜日　13：30～15：00 当日受付 聴講無料
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
＊展覧会関連講座
＊ ３月25日「「どげ」って何ですか―気仙地方の婚礼習俗　どげ(道化・道迎)―」
小野寺俊彦(当館学芸員)
＊ ４月８日「救出された資料が語る気仙地方のくらし－漁撈、製鉄、産金に視点を当てて－」
赤沼英男(当館学芸員)
４月22日「ポーの一族の世界－漫画の魅力－」
講演：萩尾望都(漫画家、女子美術大学客員教授)
司会：内山博子(女子美術大学教授)
５月13日「考古学者は土偶の用途をどう推理するか」　金子昭彦(当館学芸員)
５月27日「生命史をひも解く－ペルム紀－」　望月貴史(当館学芸員)
＊ ６月10日「わかればきっと好きになる・クモ」　渡辺修二(当館学芸員)
＊ ６月24日「あなたもハエトリグモを探したくなる！」
須黒達巳(慶應義塾幼稚舎教諭)

週末の催し

◆ミュージアムシアター
毎月第１土曜日 13：30～15：00頃 前後 講堂 当日受付 視聴無料
＊３月は、第２土曜日の10日開催です。また、例年４月は第２土曜日の開催となります。
○３月10日　防災と名作アニメ(73分／幼児～小学生向け)
①ぼくはすぐ逃げたんだ　東日本大震災から学んだこと(14分)
②むしむし村の防災訓練(12分)　③手袋を買いに(新美南吉原作　15分)
④大造じいさんとガン(椋鳩十原作　20分)　⑤たぬきの糸車(岸なみ原作　12分)
○４月14日　春のアニメ特集(70分／アニメ／幼児～小学生向け)
①「三太郎とかぐや姫の交通安全」(14分)、②「はらぺこあおむし(全５話)」(33分)、③「タマにしらーんぷり」(10分)、④「むしむし村の仲間たち　みんないいとこあるんだよ」(13分)
○５月５日　「こどもの日アニメ特集」(83分／アニメ／小学生～一般向け)
①セロ弾きのゴーシュ(宮澤賢治原作　20分)　②注文の多い料理店(宮澤賢治原作　23分)　③風のように(ちばてつや原作　40分)
○６月２日　企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」関連のアニメおよび実写映画。「クモの糸」＆自然なぜなに？生き物特集(83分／小学生～一般向け)
①クモの糸(芥川龍之介原作)(11分)
②自然なぜなに？DVD図鑑　第１集・アリ(24分)・ホタル(26分)・クワガタムシ(22分)

◆チャレンジ！はくぶつかん
毎月第２・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付
３月10日・11日・17日・18日　テーマ：花
４月14日・15日・21日・22日　テーマ：宝
５月12日・13日・19日・20日　テーマ：緑
６月９日・10日・16日・17日　テーマ：水
チャレンジ！マークをさがして はくぶつかんをたんけん！

◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)
毎週日曜日　13：00～14：30　幼児(保護者同伴)・小学生20名程度
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
※全プログラム有料です(材料費代／プログラムごと異なります)。
※要事前申込み。開催日の１週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(９：30～16：30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。１度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

３月	４日　石のオリジナルはんこ 11日　ほのぼのあかり 18日　天然石のフォトフレーム 25日　３Dメガネで万華鏡	４月	１日　オリジナル卵を作ろう ８日　スライムであそぼう 15日　手づくり万華鏡 22日　化石のレプリカ 29日　こいのぼりづくり
５月	６日　砂絵 13日　まが玉アクセサリー 20日　ばねのキツツキおもちゃ 27日　チャグチャグ馬コづくり	６月	３日　チャグチャグ馬コづくり 10日　草花のそめもの 17日　スライムであそぼう 24日　石から絵の具をつくろう

ゴールデンウィークイベント

◆Nゲージ鉄道模型運転　平成30年５月４日(金)～平成30年５月５日(土)
博物館グランドホールを、Nゲージの鉄道模型が所狭しと走り回ります。懐かしの風景が見つかるかも！　車両持ち込み可！

◆ミニSLに乗ろう　平成30年５月５日(土)～平成30年５月６日(日)
みんなでミニSLに乗ろう。小さな蒸気機関車が博物館の芝生広場を力強く走ります。皆さんのご乗車をお待ちしております。

定時解説

平日～土曜日　13：30～14：30／日曜日　10：30～11：30
解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご要望におこたえしています。
※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

利用のご案内

■開館時間　９：30～16：30(入館は16：00まで)
■休 館 日　月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)
年末年始(12月29日～１月３日)
■入 館 料　一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料
(　)内は20名以上の団体割引料金
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第156号 平成30年３月１日発行	編集　岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831／Fax. (019)665-1214 発行　公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235／Fax. (019)625-3595